

(仮称) 仙台市教育プランにおいて目指す教育の姿について
(事務局の考え方)

1 これまで

(1) 目指す教育の姿

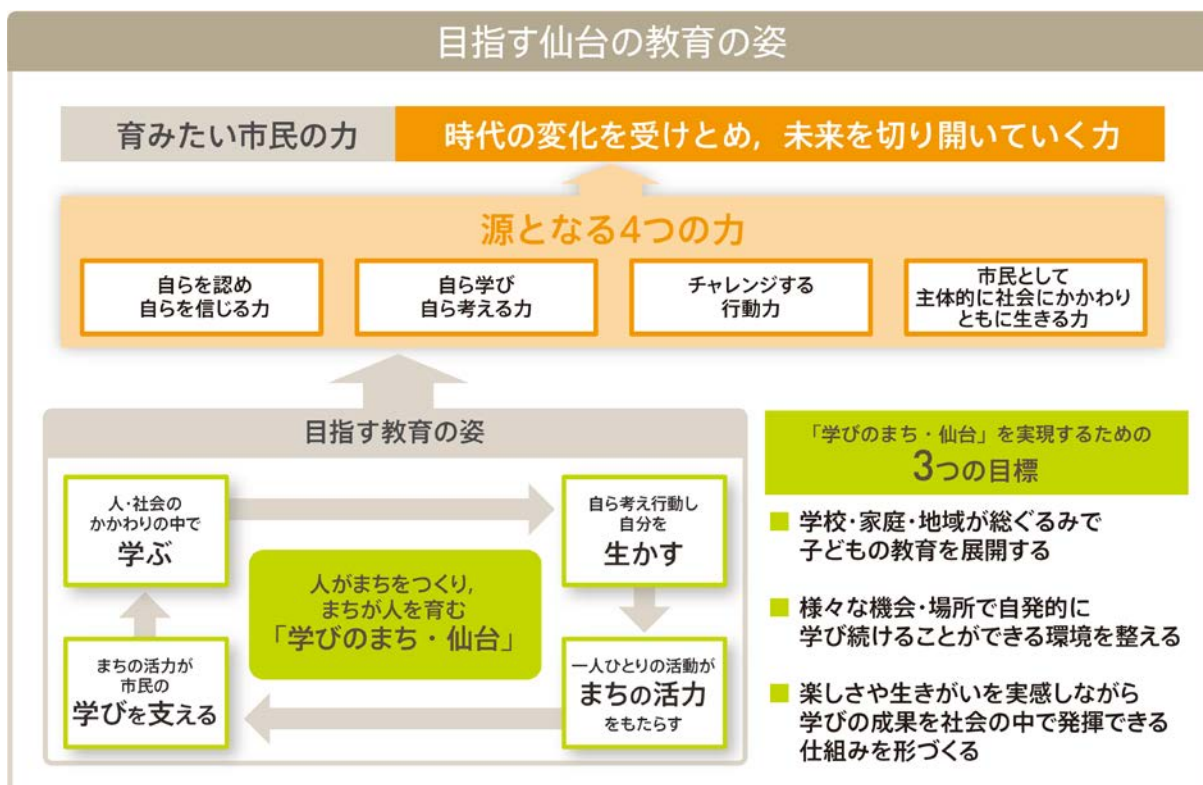
- 平成 24 年策定の「第 1 期仙台市教育振興基本計画」では、本市の教育で育みたい市民の力を「時代の変化を受け止め、未来を切り開いていく力」とし、その要素として、源となる「4 つの力」を掲げた。
- 育みたい市民の力の涵養に向けては、「まち」そのものを教育資源と捉え、人が学び、学びを活かし、まちに活力を与え、活力がさらなる学びを支える、という学びの循環の中で目指す力を育むという考えのもと、「人がまちをつくり、まちが人を育む『学びのまち・仙台』」を「目指す教育の姿」としてきた。

(2) 実現に向けた目標（手段）

- また、『学びのまち・仙台』の実現に向けては、3 つの目標（手段）を設け教育施策を進めてきた。

《3 つの目標》

- ① 学校・家庭・地域社会の総ぐるみによる子どもの教育を展開する
 - ② 様々な機会・場所で自発的に学び続けることができる環境を整える
 - ③ 楽しさや生きがいを実感しながら学びの成果を社会の中で発揮できる仕組みを形づくる
- 以上の目指す教育の姿や、3 つの目標については、「第 2 期仙台市教育振興基本計画」においてもこれを継承している。



2 この間の状況変化

第2期仙台市教育振興基本計画の策定後、以下に示すように、社会経済情勢や教育を取巻くさまざまな環境変化が生じており、目指す教育の姿を描くうえで考慮する必要がある。

- ・ IoT やビッグデータ, AI など技術革新の急速な進展, Society5.0 の到来
- ・ グローバル化の一層の進展, 多様な文化や背景を有する人々との共生
- ・ 新学習指導要領の実施, 主体的・対話的で深い学びの実践
- ・ G I G A スクール構想の推進による児童生徒一人一台端末化
- ・ 新型コロナウイルス感染症がもたらした社会変革, 非対面コミュニケーションの進展

3 目指す教育の姿, これから

(1) 継承すべきもの

- ・ 急速な技術革新により, AI やロボティクス, ビッグデータの活用などで生活や労働の大きな変革が予想される, また, 今般の感染症のパンデミックや相次ぐ自然災害など, 不測で不合理な事態は今後も不断に想定される。
- ・ このような予測が難しく不確定な状況の中で, これまで本市の教育が目指してきた市民の力(時代の変化を受け止め, 未来を切り開いていく力)の重要性はますます高まっている。
- ・ また, 学びの循環の中で市民の力を育みつつ, まちの持続的な発展を目指すという『学びのまち・仙台』の理念も普遍的なテーマであり, これらは引き続き継承すべきと考える。
- ・ なお, これまで掲げてきた「3つの目標」については, 学びのまち・仙台の実現に向けて展開する個々の施策の上位目標として, その趣旨を生かしつつ位置づけることが望ましい。

(2) 変化を捉えるべきもの

- ・ 一方で, グローバル化の進展や非対面型コミュニケーションの進展などは, 今後の社会を生きるために必要な力を想定するうえで, 考慮しなければならず, 目指す市民の力・4つの要素に加味していく必要がある。
- ・ 例えば, 次のような力の育成が必要になるのではないかな。

■ ふるさとへの愛着と誇り

グローバル化が進展する中では, 多様な文化や宗教など様々な背景を有する人々との関わりの中で生きていく必要があるが, 他者を理解し受け入れるうえでも, 自らの育った環境や歴史への確かな理解と, それを基礎とする愛着や誇りが求められるのではないかな。

■ 情報をまとめ, 咀嚼し, 創造する力

情報化の一層の進展により, スマートフォン等の所持率も年々上昇し, 情報や知識へのアクセスがますます容易になっている。大量情報から正しい情報, 必要な情報をまとめ, 咀嚼し, 自らの意見を形成していく力がより求められるのではないかな。

■ 豊かな情緒と自己抑制, 他者理解

感染症の拡大はWEB会議やテレワーク, オンライン学習など, 非対面型のコミュニケーションを加速させている。そうしたコミュニケーションの比率が高まっていく中で, 自らの豊かな情緒の涵養や感情のコントロール, 他者の情緒をくみ取りながら上手に関わる力といった非言語・非認知能力を育むことの必要性が高まるのではないかな。